

No.2917

中国西部四川客家人のアイデンティティと文化伝承に関する人類学的研究

総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻

博士後期課程

星野 麗子

本研究の目的は、中国西部四川省の客家を対象に、広東出身を意味する「土広東」と称していた人々が、近年「客家」と自称するようになったアイデンティティの変容と文化伝承のメカニズムに関して、歴史文献調査と現地フィールド調査から明らかにすることである。

本研究の調査地は、「西部客家第一鎮」と称され、客家観光地として有名な四川省成都市龍泉驛区洛帶鎮及び周辺村落である。

客家とは、漢族の下位集団であり、独自の言語、歴史、文化、慣習を有していると広く認識されている。客家は現在、中国沿岸地域である広東省や福建省、江西省を中心に、湖南省、海南省、重慶市、四川省などに広く居住している。その他、マレーシアやインドネシアなどの東南アジアをはじめ、オーストラリア、アメリカ、アフリカなど世界各国に居住する華僑華人最大のコミュニティでもある。

中国大陸の客家社会においては周辺に位置づけられる四川省の中小都市である鎮と、農村である村で、住み込みと通いを併用した現地フィールド調査を行った。

結果として、明清時代に湖南、広東、湖北などの地域から移住したとされる「湖広填四川」に関する歴史記憶について、客家地域のみならず四川省で広く共有されていることが分かった。また近年、客家をテーマとした観光開発の下、人々のアイデンティティに大きな影響を与えていることが見えてきた。実際に、観光の文化産業に従事している村の人々は、自らのアイデンティティを「客家」と自称している一方で、文化産業に従事していない村の人々は、「土広東」或は「広東」と称している傾向が強いことが分かった。

最後に、文化伝承に関しては、男性を中心とする宗族の成員が口頭で儀礼を継承していることが見えてきた。このような伝統的とされる儀礼や慣習、歴史認識などが中国国内外で如何なる客家社会の秩序や共有性を有しているかについては、今後更なる考察へと進めたい。